

令和 5 年度小松市立第一小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	積極的な生徒指導による主体性の育成 ・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした学年・学級経営や授業づくりに努める。 ・児童の主体性を大切にしたい児童会（委員会）活動の取組を進める。 ・全教職員が、子どもに寄り添い温かい声かけをする。	・児童のアンケートの「学校が楽しい」項目でA、B群が91%と出ているのは、積極的な生徒指導の1つの成果なのではないかと考える。その要因として、職員間での意識の統一が図られてきていると思う。（職員アンケートの結果でA、B群が100%） ・それぞれに仕事や責任を持たせる、それをクリアしていく、評価してもらえるという良好なサイクルが高学年に生まれつつある。 ・9月以降も、生徒指導の3機能や児童の主体性を生かした教育活動を考え展開していきたい。	
特別支援教育	一人一人のよさを認め、引き出すための特別支援教育の充実 ・支援や配慮が必要な児童について担任やコーディネーターを中心に適切に実態把握し、その子に応じた支援の実現を目指す。 ・生徒指導と協力し、児童理解を深め、児童理解の会にて適切な支援について全職員で共有し、組織的な校内支援体制を強化する。	・複数人体制で対応し、担任・生徒指導・教育相談・特別支援コーディネーターと様々な立場から意見を出し、その子に応じた支援を考えることができた。 ・毎月学年会で児童理解の時間を設けてもらい、その結果をもとに生徒指導主事・教育相談担当・特別支援コーディネーターが連携して実態を把握することで、全職員に支援や配慮が必要な児童の実態や適切な支援方法を共有することができた。	
保健健康教育	望ましい生活習慣の確立 ・発育測定時に、学年に応じた保健指導を行う。 ・児童が自らの生活習慣を見直すことができるよう、長期休みを利用して健康チェックを行う。 ・メディアと適切な関わり方ができるよう判断力を養い、望ましい生活習慣につなげる。	・発育測定時の保健指導は9月以降に行う。 ・夏休み前に熱中症予防と合わせて全校児童対象に生活習慣チェックを行った。把握した児童の実態を2学期以降の指導や学校保健委員会に生かしていく。 ・職員アンケートでは、児童がメディアと適切な関わり方ができるような取り組みについて肯定的89%、否定的11%であった。生活習慣チェックに合わせて適切なメディアとのかかわり方について指導を続けて行っていく。	
道徳・人権教育	心を育む道徳教育 ・道徳教育及び道徳科の指導方法や評価の在り方についての研修を行い、道徳教育の充実を図っていく。 ・一人一人の違いやお互いの立場を認め合い、ともに生きる喜びを持つ子を育成する。	・2学期に道徳教育及び道徳科の指導方法や評価の在り方についての研修を実施予定である。現在、その資料の作成を進めている。 ・重点項目を「礼儀」と「よりよい学校生活、集団生活の充実」とした。カリキュラムマップをもとに、道徳科と関連づけながら、挨拶運動やたてわり活動の指導を行うことができた。2学期も引き続き、各教科等や行事と関連づけながら、道徳教育の充実を図っていきたい。	
体力向上	体力・運動能力の向上 1校1プランの取り組みを推進し、体力・運動能力の向上を図る。 ・各領域においてつけた力を明確にし授業改善に取り組む。 ・多くの児童に「できた!」という経験を積ませ、仲間と共に運動に取り組む楽しさを味わわせる。	・各領域におけるつけた力が明確にわかるよう、系統性を意識した資料をまとめた。今後これを参考に授業づくりをしてほしい。 ・スポーツテストの実施が完了したので、2学期より準備運動取り入れて欲しい運動を提案していく。 ・体を動かすことが好きな児童 肯定的91% 否定的10% という中間結果から、少しでも肯定的な回答が増えるよう、「できた」経験を積ませていきたい。	
情報教育	GIGAスクール構想の充実 ・日常的にICT機器を活用した授業に取り組む。 ・児童が一人一台端末を、目的に応じて自在に扱うことができるように計画的に指導をする。 ・校内研修の機会を定期的に設定し、教職員の情報活用指導能力の向上を図る。	・教員間の情報共有の機会を設け、苦手意識のある教員のタブレット活用を促すことができた。しかし、学年間、クラス間のタブレット端末使用頻度に差がある。 ・タブレット活用スキルの系統図を周知し、担当する児童にどのようなスキルを身に付けさせるべきかを意識して指導することを促すことができた。	
家庭と地域連携社会	社会に開かれた教育課程の実現 ・地域人材とのつながりを広げ、地域のよさに着目したカリキュラム作りを行う。 ・生活科や総合的な学習の時間、特別活動において、探究的な学習を意識し、学びの充実を図る。	・地域人材を活用し、教育活動を行っていくことは大切なことではあるが、現段階で十分に取組めているとは言えない状況である。 ・探究的な学習は、どの学年でも取り入れているが、子どもたちの考えや思いに寄り添った深い探究活動となるよう、内容のさらなる充実が求められる。子どもたちに委ねるゆとりをもっとカリキュラム編成が必要である。	
人材育成	効果的な人材育成のための場の設定と工夫 ・各ステージに応じたタイムリーな研修、および学校課題に応じた研修のあり方の工夫を行う。 ・学年部会や分掌部会を充実させ、日常的にメンター制が行われるようにする。	・人材育成を目的とした研修は、ここまで計画通りに進められてきている。学級づくりや通知表のための評価等、時期も必要に合わせてタイムリーに開催できている。 ・学年部会や分掌部会では、活発に意見交換がなされ、若手・ベテラン双方に高め合うことができている。今後は、若手からの積極的な質問や相談が増えることが期待される。	

学校関係者評価	
---------	--